

改教時報

第貳號

明治三十一年一月十五日 號

第貳號

佛教徒國民同盟會綱領

- 一、本會は佛教徒國民同盟會と稱す
- 二、本會は僧侶を除き佛教各宗信徒及通佛教的道徳の感化を受けたるものを以て組織す
- 三、本會の目的は佛教未來の面目を發揮し其感化によりて先づ國民の一致力を鞏固にし漸く富國の衝を講して國家の獨立と社會の文明とに資せんとするにあり
- 四、右の目的を達せんが爲に本會が着手すべき事業の方針を定むること左の如し
 - (イ) 各宗管長及各宗高徳に本會の贊助を求むること
 - (ロ) 各宗僧侶を獎勵し其學徳を修め其品位を高めしめ又其從來の惡弊を改善せしむること
 - (ハ) 政府をして公認教の制度を立てしむること
 - (ニ) 政府をして速かに非公認教に對する處置を明たらしむること
 - (ホ) 政府をして公認教を保護せしむること共に又其監督を嚴にせしむること
 - (ヘ) 殖産興業の道を講ずること
 - (ト) 社會問題を研究し社會的慈善的事業を興すこと
 - (チ) 新聞雜誌其他有益の書籍類を發刊すること
- 五、本會は佛教各宗の合同は勿論他宗教と雖宗義及宗制上我國體と衝突せざる宗派は相提携して社會の改善を謀らんことを期す

(版權登錄)

政教時報

内務當局者に最後の斷行を促す

巢鴨事件一たび火の手を揚げてより既に五ヶ月、未だ其落着を見ずして年を改むるに至れり、此際吾人は敢て内務當局者に向て最後の斷行を促さざるを得ず前内閣の將に退かんとせざるや、天下の攻撃に堪へずして、有馬典獄を左遷し、其所置の繼續を現内務省に委ねたり、

而して吾人屢々現内務省に迫るや、必ず時機を見て教誨師を復舊すべき事を誓へり、然れども巢鴨監獄の教誨は依然として猶耶蘇教誨師に委ねらる、吾人は内務省が自ら欺き人を欺き天下の輿論を輕蔑するの甚しきに驚かざるを得ず、抑々内務省は全國佛教者の意見を代表せる我佛教國民同盟會の詰願書、及び大日本佛教青年會の質問書に對して、何故に返答を與へざるや、殊に東京府會は全府民の希望を代表し、一佛教教誨師復舊の事を議決せしにも拘らず全く之を放棄して顧みざるに至りては民意を輕んずる實に極に達したるものと謂つべし、夫れ巢鴨監獄は警視廳に屬し、警視廳費用は東京府民の支出する所、今や其府民の支出する經費を以て、府民の意に反せる教誨師を聘用して、猶耶蘇教誨師の便宜を謀り、偏曲典獄の志を遂げしむ、况んや全國佛教徒の激昂する所以のもの亦佛教教誨師を排して耶蘇教誨師を用ゐたるの點にあり、而して内務省は何の憚る所ありて躊躇する所ある、吾人は徹頭徹尾初志を貫かずんば止まざるなり、今や全國同

盟會の基礎既に成り、秩序的機關正さに具る、茲に吾人は内務當局者に向て最後の斷行を促すものなり。

政治家と宗教

宗教は社會の要素にして國家の元氣を鼓舞するものなり、されば身政治家として一國の政事に關係するものは、大に宗教の點に注意せざるべからず、然るに從來政治家なるものは宗教を無用視し、無信仰を以て却て得意とするの風あり、而して近時政治社會の狀況を察するに徳義地を拂ふて空しく、苟も節操を守る者なし、政治家として本領を有する者あるを認むる能はず、是畢竟諸氏か精神上の修養を缺ける結果にあらざるや、吾人宗教信者は大に諸氏の猛省を望まざるを得ず。

各代議士の宗教意見を質すへし

刻下の緊急問題は政教間の關係なり、公法上に於ける宗教の規定なり、今や内地雜居の期眼前に迫り、若し今日に於て劃然たる宗教法案を立つるにあらざるは、他日必ず齟齬を醸ひの悔あらむ、故に當局者は先づ各宗派に諮問して遺漏なからしめむことを勉めざるべからず、而して一旦議題として議院に呈出せられむか、必ずや僅に數時間の討議を経て、頭數の多寡を以て決定せらるること明らかなり、此時に於て各代議士の意見は、果して其撰擧區民の意を満足せしめ得るや否や、吾人は聊か疑なきあたはず、若し其曉に至りて狼狽すと雖、機會一たび去れば亦追ふべからざるなり、故に各選舉區民は現今選出の代議士に向て宗教上の意見を質し、眞實に區民の意を代表するの資格あるや否やを檢するは、目下の急務と謂つべし。

各地の運動

會報は監獄問題並に政教問題に關して、本會が如何なる運動を取り來れるや、又これに就て各地の有志が如何に先を争て起れるや、而して今後の運動は如何なる方針を以て進み行くやを逐一讀者に紹介するの一欄なり、これを以て前號先づの發端より説き起し、本願寺、青年會、並に本會が運動の一斑を述べぬ、然れども各地の運動に至っては紙數に限られてこれを盡くすを得ず、僅かにその一端を報ずるに止まり、これ重複の煩を顧みず、更に本號に於て各地の運動を記せんとする所以なり。

北陸

佛教徒國民加賀國同盟會

本問題の起るや加州地方の氣焰甚だ高く、由來佛教徒爲信なる地方の事とて續々起て運動に着手し、遂に青年會幹事を招き、同地方の信徒總代及信徒中の有力者四百餘名を金澤市本願寺別院に集め、熱心懇篤に佛教徒大同盟の必要を説かれしかば、何れも滿幅の同情を表し、翌日より最寄の有志者を勧誘し、賛成者には名簿に調印を求むるなど非常の熱心を以て運動し、殊に同地の有力者林與右衛門上島政次郎兩氏の如きは一身を犠牲とするの決心を以て之に當り、遂に金澤市、石川郡、河北郡の一市兩郡中、今日迄に賛成調印せしもの既に一万戸以上に達し、

尙益々運動中なりといふ、形勢此の如く日に盛なれば事務所を金澤市英町六十七番地に置き、名刺を佛教徒國民加賀國同盟會と名け本月十一日發會式を擧たる筈なり、

能美郡佛徒同盟會

本會もまた本問題の當初より個人個人に運動し居りしが、青年會幹事の遊説以來、氣煩頓に加はり遂に舊臘題號の如き會を結び、小松町稱名寺を事務所とし、舊臘廿四日同寺に於て組織會を開き、役員の撰擧を行ひ、熊田源太郎、丸瀬清五郎、毛利八郎平、松木佐次郎、村田彌右衛門の五氏當撰、縣會議員、青年實業家、學校教員等の賛成多く、組織會當日迄に賛同加盟のもの七千餘名に達し、爾後益々其數を増加するといふ、其綱領左の如し

能美郡佛徒同盟會綱領

- 一、本會は能美郡佛徒同盟會と稱す
- 二、本會は僧侶を除き佛教各宗信徒及通佛敎的徳徳の感化を受けたるものを以て組織す
- 三、本會の目的は佛教本來の面目を發揮し其感化によりて先づ國民の一致力を鞏固にし漸く富國の術を講し以て國家の獨立と社會の文明に資せんとするにあり
- 四、右の目的を達せんが爲め本會が着手すべき事業の方針を定むること左の如し

- (イ) 佛教を以て大日本公認敎たるの實を擧げしむること
- (ロ) 政敎の分別を明にし其混亂を防制すること
- (ハ) 佛教徒の團結を鞏固し以て外敎の蔓延を防遏すること
- (ニ) 僧侶の學徳を勸奨し其本領を堅守せしむること
- (ホ) 社會的慈善事業を起し努めて佛教徒を保護すること
- (ヘ) 佛教の繁榮を妨げんとする不正の行爲を爲すものあるを見認むるときは何等たるを問はず自衛上飽よく之を排斥すること

威徳青年會

加賀國大聖寺町の威徳青年會といふは去る明治廿三年の創立にして、現時該地方に於ける佛教團體

の中央部となり居るものにして、本問題の起るに際し、佛教青年會に向て同働一致の運動を申來れり、全會幹事桑島榮一氏以下の會員非常の熱心を以て日々各要所に出張して演説會を開き、大同盟の必要を説きて、會員募集に盡力中なるがその効果は忽ち顯はれ、加盟を申込み來るもの引も切らず、中には一村擧て入會せんとするものも少からざる由、

富山縣佛教徒國民同盟會

富山縣に於ては本問題の起るや、先づ高岡市の有志起て檄文を飛ばして縣下の僧俗を促し、其の後各郡諸所に集會を開き昨年十一月に至ては高岡市に於て一市四郡の大會を催し、鬱勃たる元氣は機を見て將に發せんとしつゝありしが、遂に舊臘富山市總曲輪に富山縣佛教徒國民同盟會を設立し、之と同時に東礪波郡出町眞壽寺内に礪波支部を開き、目下會員募集中にて近日その發會式を舉行する筈なりと、而してこの運動の主腦者は乘杉教存氏並に縣會議長上野安太郎、農業銀行頭取島田孝三の兩氏にして、同地の新聞の如きは舉て賛同を表し居れりといふ、此他同國中新川郡に於ける、

本願寺派青年有志總代

梅原、細川、瀨川、高田、金森、圓山の諸氏は本問題に於ける佛教青年會の運動に感じて、懇篤なる謝辭を該會に送り且つ同働一致の運動を爲さんことを申込みぬ、

越後米北

にては昨年十一月二日米北大谷派二十八個組并に佐渡の各組長、南蒲原郡三條町に會合し、種々熟議の末運動の方針を定めたり、其の要項を摘載すれば左の如し

- 一、各組合に於て演說會を爲し輿論を喚起する事

一、各組幹部より有志金を募り之が費用に充つる事
 一、大日本佛教青年會に氣脈を通じ一致の運動を爲すべき事
 而して土屋法潤、井上圓成の二氏を推して理事となし、その運動に従ひ、更に同月廿日再び同町に會議を開き、政教の關係にして截然たる規定を見るに至らずんば止ざる事を誓ひ、爾後井上圓成氏の如きは柏崎、出雲崎、脇野町等の諸所に於て演說會を開きて監獄問題並に政教問題に就て大に地方の人心を喚起し目下各自其地方に於て、同志を募集中なれば遠からず同盟會支部發會の式を擧ぐるならんといふ、因に記す、米北大谷派第四組は、濟邊憲瑞氏等の有志非常の熱心を以て運動し米北中氣焰最も高しとの説あり

◎越後米南

にては米南第四組總代百餘名昨年十月三十日高田別院總會所會合して三ヶ條の議決を爲し、これに米南廿四組聯合會法協和會を組織し、各自調印の上會長評議員を互撰したり、その主義綱領は左の如し

綱 領

- 一、二諸相俟の教旨に基き國体を無限に奉持し國威を光輝せしむべき事
- 一、政教の關係を明かにし二者の間而も親密ならしめんことを企圖す
- 一、本宗の宗義に則り國家的觀念を發揮し公衆事業を施設するものことす
- 一、後に米南第四組より第二十四組迄同地結合して飽まで主義綱領の目的を達すべき事

一、愛國護法の爲め結合する諸團體と交互氣脈を通すべき事
 かくて諸方に演說會を開きて該地の氣焰を高めたり、岡田謙賢、澤村廓然、安居院現澄、濟邊西相、淀野嚴耀、古川智嘯、金子勇榮、齋藤其捐、能村惠、田中融悟等の諸氏主として運動の勞を執れりと聞く、而して別に中頸城郡中鄉村佛教青年會代表者渡邊大見氏並に上越同志會總代淀野嚴雄氏外數名より、今回の事件は佛教の將來に影響するところ少からざるものと爲し、青年會と同一の方針にて飽迄運動せんとするの決議書を青年會に送附し來れりといふ、

◎越前 於ても有志の奔走甚しく、福井市の有志は青年會幹事を聘して一層この問題に對する熱度を高めたり、十一月十六日福井市大谷派別院に於て演說會を開き、辻森要眼氏開會の趣旨を述べ、次に伊藤大忍氏の演說あり、終て近角氏出演、精神的大合同の必要を説き、大に聽者に感動を與へしが、翌十七日近角氏は更に有志者三十餘名を集めて、懇篤に大同盟の必要なることを説きしに、各自頗る同意を表して精々盡瘁する決心をさせしが、中にも同市實業家の巨擘片山平三郎氏の如き殊に滿腔の賛同を表し同盟會の設立に全力を盡くす旨を誓ひたり、その後、桑門賢祐、津田金祐、原武、伊香間賢運、辻森要眼、桑門典、楠昌太、三輪與三郎等の諸氏の盡力にて形勢日に盛んに、目下官民の有力者靡然として贊同し來るの有りければ、近日日本會と連絡を結びて盛なる發會式を擧ぐる筈なりといふ

◎坂井郡金津町

同時に演說會を開きければ、同地の氣焰も亦從て上り、太子堂了諦氏の如き、主として熱心なる運動に従事しなければならぬと遠からず、本會支部開設の運に立ち至るべし

◎今立郡

にては中山厚運氏の如きも此運動の開始するや非常の熱心にて青年會と提携して運動せんことを同會に申し出で頗る盡瘁せらるるといふ

◎尾張佛教同志會

尾張佛教同志會と稱し、佛教各宗同志會の別働隊として運動する計畫なりといふ、その綱領左の如し

- 一、本會は尾張佛教同志會と稱す、
- 一、本部を名古屋下茶屋町別院内に置く
- 一、本會は米南第四組を以て組織す
- 一、本會の目的は佛教本來の面目を發揮し佛教徒の一致力を鞏固にし社會の安寧に資せんことす
- 一、左の事業を以て本會の目的を達せんことす
- 一、佛教をして公認教たらしむる事
- 一、政府をして速に佛教に對する處置を明ならしむる事
- 一、佛教盛盛と助成せんとする行爲あるものは自衛上之を排斥する事
- 一、各地の國体を交渉し同一方針に進行する事
- 一、本會は各組に委員二名若しくは三名撰定し、全委員互換を以て常務員五名を置く事

◎三河佛教同志會

三河にては此の問題の當初より諸所に會合を開て運動の方針を議しつゝありしが、昨年十一月廿日安城驛安城館に於て三河有志大會を開き、その結果として三河佛教同志會を設立したり綱領左の如し

- 第一條、本會は三河佛教同志會と稱す
- 第二條、同志の僧侶を以て組織す
- 第三條、本會の目的は佛教本來の面目を發揮し佛教徒の一致力を鞏固にし社會の安寧に資せんことす

◎能登 是舊臘七尾町に於て大會を開きて七尾同志會を設立し、次で佛教青年會起り、同地常盤新地三島座に於て演說會を開き、小島、三山、日向の諸氏出演頗る盛會なりし由、目下同盟會會員募集中なりといふ經隆祐勸氏の如き、同地に於ける熱心なる運動者なりといふ

◎尾張各宗同志會

尾州は由來宗教的熱心の地なり、住民亦多く佛教の信者に屬す、今回の事件の如き何んぞまた黙々に附し去るべけんや、即ち昨年十月三十日各宗協同にて名古屋の一劇場に於て演說會を開き、當路者の不當を絶叫せしが、其の後同地の有志者倉耕造氏の上京するありて、諸事青年會と打合せの上歸國し、種々運動の方法を劃策し、十一月廿六日名古屋市明治館に於て同國全國有志者の大懇話會を開きしに、時恰か青年會幹事北陸の歸途、茲に會し共に今後の運動を熟議したり、出席者五百餘名にして左の五ヶ條の決議を爲したり、

- 一、全國佛教徒大懇話會を名古屋市中に開く事、
- 一、宗派的感情を排し一致の運動を爲す事、
- 一、貴族院議員を應訪して宗教上の意見を叩く事、
- 一、公衆の選挙に係る代議士名譽職は必ず佛教徒より出す事、
- 一、右の目的を達する爲め五十名の評議委員を撰定し諸事を審議せしむる事

◎三河佛教同志會

三河にては此の問題の當初より諸所に會合を開て運動の方針を議しつゝありしが、昨年十一月廿日安城驛安城館に於て三河有志大會を開き、その結果として三河佛教同志會を設立したり綱領左の如し

- 第一條、本會は佛教各宗同志會と稱す
- 第二條、本會事務所は假に名古屋市中門前町見守寺内に設置す
- 第三條、宗派的感情を抛り懇話會決議の實行を期す事

第四條、右の目的を達せんが爲に本會が着手すべき事業の方針を定むること左の如し

第一項 政府をして佛教を公認教たらしむる事

第二項 政府をして速に宗教に對する處置を明瞭ならしむる事

第三項 佛教の繁榮を妨げんとする不正の行爲を爲すものある時は自衛上之を排斥する事

第五條、各地方團體と氣脈を通じ同一方針を進行する事

第六條、同志會員中より十名の評議員を撰定する事

而してその評議委員には村上流情、伊勢祖住、三浦德英、多田慶龍、赤松慶惠、星川制意、島澤祐乘、占部傑、清水良秀、龜山誓鏡の諸氏當選したり

◎岡崎各宗合同會等 青年會員石川成章氏、客臘福省

以來同地の有力者三浦德英氏、和田淨氏の諸氏と共に熱心に奔走運動せる所あり、其結果として同地附近各宗協同會の一團となり、今日岡崎市に於て大會を催したりと云ふ、尙石川氏は舊臘各所に於て演說會を開き、到る處熱心に賛同を表し同盟會に加入を申込み引も切らずと云ふ、今其一斑を記すれば、去月廿一日、八ッ橋淨教寺に開會の西參佛敎會第百會式に臨席し、小栗栖師、秋倉氏と共に一壇の演說を試み、同盟會の趣旨を披露し聽者に非常の感動を興へ、同夜直に西參佛敎會の懇話會に列し、監獄問題發端以來の狀況を報告し大合同の必要を德應し翌二十日は今村專相寺に於て演說會を開きしに聽衆滿堂立錫の餘地なきに至ると、而して同氏を今日十二日開會の三河全國組長視察會議に列し直に歸京の筈なり。

◎道德會 同地の道德會も亦起て運動に着手し十月十三日泉田西念寺に集會を開てその方針を議し、諸所に於て演說會

して、歐文反省雜誌を發刊せしめ、日本の政治文學宗教を歐洲の人民に紹介せんことを勉められしに、今回益々時世の急迫なるを察し、本月末を以て清國內地狀況視察の途に上らるるの計畫あり、又東本願寺新法主大谷光瑞師は資性濃厚にして熱愛の念最も深く其感化的性能を有し他を悦服せしめらるゝの點に至りては洵に宗教家の模範たり、特に氣概を重んじ又廉潔を尊び、幼より學を勵まるゝの風あり、曾て岡崎の學館に學ばるゝや、同派改革派の首領清澤文士、稻葉理學士等日々參勤して、普通學敎授の任に當り、徳性の修養に於て殊に勉むる所あり、曩に改革騷動の起るや、固より改革派の廉直を明知せらるゝが故に、思を改革派によせらるゝと雖、内部種々の事情に顧みて、強て無言の姿を取られたりしに、昨年末、大法主より敎學のことは一新法主に任ずとの命ありしより、時機來れりとして、内地、支那、臺灣の布教に付て自から畫策せられ、役僧等に課する所なくして、先づ身を脱して舍弟淨曉院師と共に東京に來られ、同時に二連枝を支那臺灣に送られしことは當時の新聞上に明なる所なり、而して今や同師は淺草本願寺にありて南條、村上、奥田等の諸師より佛敎の敎授を受け、深更に至るまでの復習に餘念なく、暇あらば新進の青年を招いて將來の布教法等につき相談畫策せらるゝ所ありといふ、而して高田派新法主常盤井鶴松師は、今の近衛公爵の令弟にして、幼より常盤井家に養はれられしに、十年已前、深く時世に感ずる所あり、獨乙國に留學して、同國の中學より大學に進み、梵語、巴里語、西藏語、希臘語、等を専門に修め、昨年、遂に優等を以て獨乙國ストラスブル

を開會せり、辨士は鈴木麟應、谷田盈米丸、水野了真、本多暢圓、天山一以の諸氏にして開會毎に何れも盛會なりと云ふ、目下本會支部設立の運動中なり。

◎相愛會 於ては佛敎青年會、並に社會評論團に向

て一致の運動をなさんことを申し込み、其後谷田本正願寺に於て相談會を開らるゝ、爾後演說會等を開き若々運動に歩を進めしが、目下は本會支部設立の爲會員募集中なり。

◎關西、中國、四國、九州、關東、東北、北海道 地方等

の詳報既に脱稿したれども、紙面に限りあるを以て乍遺憾あり愛して次號に譲る事となしぬ、猶各地狀況は續々本所に向て通信あらんとを希望す。

◎寄附金 越前中山了運氏より金一圓五十錢、越後、北

有六諸君より金二圓五十錢、三河國西參佛敎會より金五圓を何れも青年會へ又越後米北有志諸君より金二圓五十錢を同盟會へ寄附せられたり、茲に謹て其厚意を感謝す。

社 會

◎眞宗三派の新法主 三派とは東西兩本願寺と高田

派專修寺となり、うの三新法主が何れも聰明にあらせらるゝことは予輩の尤も喜ぶ所なり、西本願寺の新法主大谷光瑞師は、資性快活にして、夙に世界の大事に注意し、その會て學習院を退學せらるゝや、將來露國語の我國民に必要なを察し、衆に率先して自から露國語を研究し、又其私財を以て徒弟數名を露國に留學せしめ、内地に在ては其派の青年を獎勵

予輩は眞宗末寺の子弟にして、未だ文明的の智識に富むもの少きを慨するの今日に於て、三派の新法主が、その法主たるの貴目を引き去るも、優に今日の青年を誘掖すべき識見、學問、徳望を備へらるゝを喜ぶものなり、青年子弟にして奮發せば、蓋し佛敎今日の衰頹又憂ふるに足らざらん

◎井上圓了氏の佛敎改革談 井上圓了氏の佛敎改革

談なるもの、近頃時事新報に掲げられたり、今其要領をいへば、三方法あり、一、政府の干渉、即ち政府は思切て各宗の住職なるものは、尋常中學卒業生に限り、中本山の住職は高等學校卒業生に限り、大本山の住職は大學卒業生に限るとの命令を發すること是なり、尤も是は年限を定めて實行せしむべし、二、社會の刺撃、即ち信徒が文明的の敎育を受けたる僧侶に非れば我檀那寺へは寄せつけぬといふ決心を爲すと是なり、三、末寺の合併、即ち小寺を廢して之を合併し、敎育ある僧侶に相當の收入を興ふること是なり、大本山の住職は大學卒業生に限るとはや、言ばの偏りたる嫌あれども、井上氏の改革案は固より予輩の素意と合す、殊に

予輩は今日の信徒か互に、意を合して不品行なる僧侶に食物を與ふるの念を斷たんことを希望するものなり

同志社騒動の再燃 昨年二月頃のことなり、京都同志社校長横井時雄氏か、時の文部大臣西園寺侯に稟請して、同志社諸學校に對して徴兵猶豫の特典を願ひ出たるに、文部省は、其基督教學校たるの故を以て之を許さざりしかば、横井氏は東京に於て同志社々員會を開き、同志社綱領中の一部を削除して、その宗教學校に非ざるを證明し、以て文部省の認定を受けたり、然るに同志社は明治八年の創立以來、凡ての費用は皆之を外國に仰ぎ、今日に至るまで四百萬圓餘の寄附金をアメリカン、ポールドより受けたるものにて、外國が此寄附金を爲すは、全く基督教を宣傳する目的なるに、今同志社々員會が横井に越權の處置を爲したるは不都合なりとて、基督教者は二派に分裂して昨年三四月の頃は、争の火の手頗る盛なりしも、何故か其後暫く音沙汰なかりしが、此頃火の手再び燃え上りて、アメリカン、ポールドの代理人は遂に訴訟を提起することに決し、社員會は先月集會を催はして社員辭職を決したりといふ、本月七日の日本新聞の所論大に肯綮に當れるをみる、乃ち之を採録す

現時我國に於て、基督教徒中には當然二派の潮流あり一は信仰を主眼として明々基督教の看板を掲げんとし、一は陰然勢力を占めんとして基督教の看板を撤はんとす、二派の方針公私私明と暗と此の如く異なりと雖も、其の基督教の普及を計らんとするは一にして而して其の資本を外國に仰がずんば立脚地を得ざる亦一なりとす、或ものは斷然資本内地に獲て外人の干渉を受けるを愼み獨力進行せんことを空想するものありと雖も、這は實に空想に終らざるを得ず、看よ現時諸種の基督教の事業若くは會堂學校にして外國の資本に依らざるもの果して幾許かある、日本の基督教の名目比較的有文字の少數者間に唱はられつ

仰の光を失へり、我國に於ける基督教の前途も亦遠ひかな、
◎神奈川縣監獄 典獄新妻駒五郎氏は田澤俊明氏の教誨の好結果なりしを感謝し左の如き書状を送りたりといふ。
拜啓者田澤俊明師多年當署及横須賀小田原兩支署へ派出教誨を加へらる候結果本年申度表を授與したる者因年男三十四人女五人有之退々改過歸善の輩も不少候修驗明年も引續き派出申度候様御取斗申度此段御挨拶及御依頼候御々
明治三十一年十二月二十六日
神奈川縣典獄新妻駒五郎

雜 報

清國布教の視察

左の一篇は在臺灣大谷派本願寺連枝大谷豐誠師より同山參務石川師に寄せられたるものなりといふ、觀察頗る奇矯なるものあり乃ち之を採録す
拜啓寒冷の候に、處貴師益々御盛榮賀奉候下而拙僧無事消光罷在候、御安心被下度候、切去九月上海より御音信申上候、以後甚た御不沙汰に打過失敬、任候、實は拙僧去十月十一日招商局汽船海琛にて上海を出發仕候、途中嵐錨に損所を生じ候、爲め十三四時間延着十四日午後九時無事福州に着仕候、福州には船都合にて五日間滞留仕、同地出帆のさぐらす會社汽船にて乗船致し翌二十日出帆致し候、處同夜暴風雨に出合ひ困難仕、候得共翌二十一日午前九時厦門に安着仕、此地に於きても亦船都合にて二週間程滞留仕候、實は此度臺南へ渡り候、上臺北へ向はむと存し厦門に於きて安平行汽船出帆を待居候、處十一月八日當港出帆の汽船有之候、故是れに乘船の心算なりしが豈計んや同船は既に香港にて西洋人上等室を悉皆買切り候、爲め下等に乘船致すより致方無之次第に相成り詮方なく臺灣淡水直

ある一種の呼聲にして其の實なきもの、若し基督教にして日本的ならば則ち其の基督教は基督教にあらず基督教たるに妨げざる日本なれば則ち其の日本的は日本的にあらず、元來基督教の旨義は嘗て佛者が採りし所の權理觀を襲踏し得べき性質のものにあらず、勿論外國宣教師の頭腦には全く無意味の呼聲なるに過ぎざるなり

然れども既に外國に仰ぐ以上は其の政治に暗ふべき成程の報告を爲さるべし、其の報告は純然なる基督教員に適當の報告ならざるべからず、決して我國情民俗に適當したるものなるを得ず、換言すれば我國情民俗をその邊まで破壊したるかの報告ならざるべからず、唯日本人にして基督教徒となり外國資金に依りて行動する非難からずや、基督教の名を標置して進むべきは或は外人との關係は圓滑ならん、然れども決して日本的なるものは夢想だも爲さるべし、隨て報告すべき多數の信者なきを奈何せん、他の假面を被りて社會的に進まんか、幾分か世人の同情を惹くことにはあらん、然れども實を外國に獲んことには益々困難ならん、此の二潮流の基督教社會を構ますや一朝一夕の事にあらず、幸に之も教徒たるもの牧師たるもの、其の衝に立ちて外國に相繼ぎ報告をなす、内國には相繼ぎの難難をなすし今日に及べり、然し是れ永久の業にあらず、遂に之が葛藤を事實にし之が真相を暴露したるもの即ち同志社騒動なりとす
要するにこの争論は、外國思想と日本思想との衝突なり、信仰と不信仰との衝突なり、徳富、金森、横井、三好氏等の一派は日本的の基督教を鼓舞せんと欲すると同時に、現今の基督教は、我が國に發達せざることを看破し社會的假面を被らんとしたるものなり、然れども此一派が日本的に成れると同時に確かに基督教に對する眞の信仰を失ひたるも事實なり、是れ外國人等が大に此一派を信用せざる所以にして今後其資本を日本人に委ねるを危険とし自から手を下して直接に布教せんとすといふ、而して内地難居の期は眼前に迫れり、此際に於ける所謂日本的基督教の立脚地は如何、余輩は刮目して其態度を見んと欲するものなり、噫現今の基督教徒信仰あるものはやゝもすれば之が國家を忘れ、日本的なるもの決已に信

航の同日出帆の汽船へ乗船仕候、途中連日の暴風の爲め海檣海峽へ避難致候、爲め十日間延着去十八日無事淡水へ入港仕候、翌十九日當地安着仕候、切其間の日記的記事は貴師に御話し致すも無用故此處には略し唯其間に拙僧が見聞致せし事并に將來布教致すべき方針等の愚考を御報告申候、先福州より始め候得ば福州は御承知の如く福建省の首府に有之候爲め、隨て門閥家或は政治家學者等の子孫多く住居致し居候、當地にては日本熱の盛なる事は非常にて其結果現今福州南臺に於きては東文學堂と申す日本語學校有之盛に日本語并に日本の文明を研究致居候、切當地は前に申候如く人種多く有之候、爲め隨て上流の有志家間に於きて日本熱の盛なるも全く日本を手本として支那帝國を世界文明の大勢にともなはせんと云考より從て日本熱も盛に有之候と愚考致候、全体當地は商業より製造業盛にて商業の如きは茶第一なれども近年印度茶廉價にて盛に行はる、様に成りしより當地の茶は次第に衰微の傾向有之候付きては將來は左右今日にては商業上より宗教を傳播致事は頗る困難に御座候依て當地へ布教致は先直接布教よりも間接布教に重々置漸次布教致方相當と考へられ候切其間接布教中にも最も當時一般人民に歡迎さるゝは教育事業に有之候、其教育事業に付前に申し東文學堂の事を一寸御報知致せば此東文學堂と申す今日の所にては全く一の語學校にて教師は日本なる岡田兼次郎氏一人にて他に筆算并に習字等は支那人之を教授致居候、尙學校の發起人と申は皆舉人并に秀才なる王孝、繩史式珍、劉崇紫(林則徐の曾孫)の三人にて尙黒幕的發起創立者は皆當地有力者並に

高等官なる孫保瑤、孫保琳、楊春瀛、廣手松、林師尚、岡岡如、劉學恂、陳寶琛、林式如、蔡瑣、楊維、崇、劉、崇、翊等、に有之、又生徒は現今三十三四名にて、皆當地有力者の子弟にて、貴公子に有之、當時大抵は寄宿を致し居、候、當時月謝は四圓程に有之、候、得共若し將來月謝等を廉に致せば、生徒も非常に増加致すならん、との話に有之、現今の所にては、基本金と申すものも充分ならず、其上、場所等も多し、生徒を入れ得る程、廣大ならざる、爲め、月謝にて入學者を制限致し居るすがたに、有之、候、付きては、福州領事並に、教官岡田等の考へには、將來は當校を大抵日本の中學程の程度に致し、月謝も大抵二圓内外に減して、廣く生徒を募集し、充分規模を大にし、以て完全なる學校と致し、度と云ふ考へに有之、付きては、幸、本山にても、此度當地へ布教着手に相成る、あらは、當校を御引受に成りて、漸次に學校を宗教學校の性質をそなへし、め、以て、布教の手段と爲され、候、方御都合と存じ、候、と云、意見に有之、候、付きては、私の意見も、前述の如く、當地は間接布教に重きを置く、と云、考へ、故其方針を以て進む時は、是非學校は必要に有之、候、然れば、新に起すよりは、現今有之、候、ものを使用、致方、事業上、萬事容易と存、候、故、私の見込にては、將來當校を引受け、以て、宗教心を人民の腦に注入、致す、一助と致し、度と考へ、に有之、候、右の次第、故此度當校基本金中へ、五拾圓寄附、致置、候、實は、多額に致し、度考へ、には、候、へ、とも、(中略) 不本意ながら、五十圓のはした金に、すまし、置、候、右様の次第にて、正しく、布教に着手、致す、には、此上、充分なる、視察、必要に、は、候、へ、とも、私は、充分、見込、有之、候、考へ、に、御坐、候、尙、當地には、鼓山の湧泉寺、西門外の西禪寺など、申し、有、望なる、寺院も、有之、候、故、布教、其、宜しきを得、ば、充分なる、好果を得

考に御座候、尙、々々、御記、願、置、き、度、は、當地、は、間、接、布、教、に、重きを、置く、と、云、ふ、一、事、に、有、之、候、中、々、外、教、の、當、地、に、布、教、致、し、居、候、事、は、非、常、に、現、に、其、機、關、學、校、に、は、西、文、學、堂、と、申、す、もの、あり、て、實、に、盛、なる、事、に、御、座、候、然、し、假、令、外、教、徒、に、成、り、居、候、者、の、多、數、は、決、して、外、教、の、教、理、を、信、し、或、は、外、教、を、國、家、有、益、の、もの、と、信、して、教、徒、に、加、入、致、し、居、る、に、は、御、座、な、く、此、教、徒、に、加、入、致、し、居、れば、幾、分、の、保、護、を、得、て、無、法、なる、支、那、政、府、の、壓、制、を、免、る、爲、め、の、利益、有、之、候、故、其、自己、の、利益、上、より、皆、加、入、致、し、居、る、有、様、故、若、し、佛、教、者、幾、分、政、治、的、的、思想、を、以、て、夫、れ、其、當、路、者、に、交、際、致、し、外、教、が、人、民、に、與、ふる、利益、と、同、様、なる、利益、佛、教、者、に、して、成、し、得、れば、彼、等、に、は、例、へ、現、今、は、死、した、ると、は、雖、何、分、佛、教、と、云、觀、念、は、先、天、的、的、腦、裏、に、有、之、候、故、必、然、教、理、を、弘、め、得、る、こと、は、容易、と、思、考、仕、候、以、上、は、福州、に、於、ける、拙、見、聞、上、の、愚、考、に、有、之、候、(未完)

社會的傳道の必要

左の一篇は、大日本佛教青年會が各宗派本山及議會議員に發して、社會的傳道の必要及び其方法を披瀝し、之が改善を促せしものなり、冀くは、此際、佛、教、者、たる、もの、宗、教、的、本、義、を、自覺し、至、誠、摯、實、熱、淚、を、揮、て、感、化、事、業、に、從、事、せ、ら、れ、む、こと、切、望、に、堪、へ、ざる、なり、

拜啓、御、清、淨、爲、大、法、御、靈、禱、の、至、に、御、座、候、陳、者、今、同、里、鴨、監、獄、教、導、事、件、導、火、線、と、な、り、て、宗、教、問、題、は、今、や、社、會、目、の、中心、と、相、成、候、大、事、業、に、是、諸、師、が、爲、大、法、多、年、御、靈、禱、の、結果、に、是、諸、師、の、初、志、漸、く、成、果、と、な、り、時、は、相、道、り、候、此、際、我、佛、徒、は、舊、來、の、姑、息、情、眼、を、破、り、先、づ、自、覺、自、勵、宗、教、的、本、義、を、自、覺、し、宗、教、的、感、化、を、以、て、社、會、の、改、善、を、促、し、國、家、に、貢、獻、す、所、あり、ん、と、天下、に、對、して、面目、無、き、のみ、ならず、實、に、佛、祖、に、對、して、慚、愧、の、至、に、不堪、候、諸、師、は、一、派、の、限、に、當、ら、ず、諸、師、既、に、滿、願、の、成、遂、望、む、に、萬、々、承、知、仕、候、一、片、仲、々、の、心、已、む、能、は、ず、早、見、を、披、瀝、し、て、之、を、左右、に、訴、ふる、次第、に、御、座、候、陳、者、是、諸、師、御、靈、禱、下、候、は、爲、大、法、廣、濟、の、至、に、堪、へ、ざる、なり、

抑、感、化、事、業、善、業、及、び、社、會、事、業、は、第一、自、ら、宗、教、的、信、念、深、く、し、て、感、化、的、的、責任、

を有し、慈善救済を以て自ら終生の樂とする人に非ずんば之に當る資格なき者と存候、換言せば、宗教其物の化身と謂ふべき人物に非ずんば、決して最後の結果を収む可らずと存候、第二に之に當る人は、一般普通學の習識を有し、其事業の種類に從ひ、特別の學科を修め、其感化の方法に明なること必要と存候、第三に、由來、佛、教、者、が、慈善事業を以て傳道的手段に供せしやの、嫌、有、之、候、事、は、實、に、慈善事業の精神を誤りたるもの、現、や、間、に、慈善事業を以て宗教の裝飾とせざる感あるに至りては、言語に絶したる次第に、候、抑、慈善事業は、宗教的、慈善の溢れて外に、顯、れたるもの、慈善其物の結果を取、社會を改善すること、唯一の目的とする、こと、肝、要、と、存、候、右、は、宗、教、者、の、社、會、事、業、に、於、ける、精神、に、御、座、候、陳、者、は、目、下、若、手、す、べき、各、事、業、を、詳、論、し、其、人、才、養成、法、及、經費、支、出、の、總、論、に、付、開、陳、可、仕、候、

監獄教導問題は、今回既に紛擾の根本と相成候、候へば、此際、佛、教、者、は、内部に於て、大に改善を圖らざるに、交、り、に、他、を、責、む、る、に、酷、なる、の、誤、は、免、れ、難、く、存、候、該、事、業、の、如、き、は、社、會、罪、惡、の、禍、害、に、入、り、て、宗、教、的、感、化、を、掌、る、もの、な、ら、ば、最、も、前、記、の、資格、ある、人、才、を、選、擇、す、る、こと、大、肝、要、に、有、之、候、殊、に、監、獄、學、理、學、社、會、學、等、の、習、識、を、有、す、る、こと、極、めて、肝、要、と、存、候、現、今、の、監、獄、教、導、事、業、は、果、して、右、の、資格、に、應、ず、る、者、なる、や、諸、師、の、御、一、考、を、煩、す、に、足、り、ざる、候、存、候、故、に、刻、下、の、急、務、と、して、一、方、に、監、獄、教、導、事、業、に、附、帯、し、て、必、ず、若、手、す、べき、は、免、因、保、護、に、候、既に、監、獄、に、於、て、感、化、したるもの、再び、社、會、に、出、て、復、た、罪、科、を、犯、し、舊、惡、を、反、覆、す、る、に、至、る、は、一、は、社、會、其、者、の、罪、に、候、へ、ば、一旦、宗、教、的、感、化、を、以、て、進、善、改、過、せ、し、め、る、以上、は、他、途、の、が、保、護、の、任、に、當、る、は、宗、教、者、の、責、務、と、存、候、若、し、感、化、を、放棄、し、て、顧、み、ざる、候、如、き、は、春、翻、して、秋、收、む、る、を、忘、れ、たる、愚、に、陥、る、のみ、ならず、感、化、の、精神、の、貫徹、を、期、せ、ざる、もの、に、候、又、已、に、監、獄、教、導、に、當、る、もの、は、自己、の、感、化、を、因、徒、が、始、め、て、社、會、の、光明、に、浴、する、を得、たる、次第、な、ら、ば、之、を、子、愛、し、て、其、前途、の、指、針、を、與、ふる、は、最、も、其、樂、と、す、る、所、なる、べし、と、存、候、

以上の監獄教導及免因保護の如きは、已に一旦墮落したる罪惡の徒を救済するの方法に有之、候、抑、宗教者が先づ是等罪惡に向て手を下すは、或は相當の順序たらん然れども、既に一旦墮落したる者は、之を回復すること甚難く、其結果に比すれば、其努力を要する頗る大なり、誠、に、彼、等、が、墮、落、を、未、然、に、防、ぐ、が、爲、に、貧、民、教、育、育、兒、事、業、に、着、手、せ、ざる、べ、から、ず、是、は、社、會、問、題、と、して、現、時、衆、人、の、若、目、する、所、者、若、し、吾、人、の、希望、を、し、め、明、言、せ、し、め、ん、と、音、に、是、れ、民間、有志、者、に、一、任、す、べき、者、に、非、ら、ば、不、可、也、國家、は、宜、しく、其、經費、を、支、出、し、て、救、濟、の、策、を、講、じ、社、會、の、改、善、を、謀、ら、ざる、べ、から、ず、る、候、に、候、然、れ、ども、是、が、實、務、の、衝、に、當、る、もの、は、皆、人、宗、教、家、の、他、に、求、む、べ、から、ず、存、候、吾、人、如、此、希望、を、如此、自、任、と、する、者、に、先、づ、自家、の、音、力、を、以、て、之、が、實行、し、若、手、し、其、模、範、を、示、さ、し、れば、社、會、を、し、て、其、必要、を、感、ぜ、し、む、べ、から、ず、是、れ、現、時、佛、教、者、が、眼、光、を、社、會、問、題、に、轉、せ、ん、こと、切、望、せ、る、所以、に、候、

上來、列、舉、せ、し、諸、種、の、事業、は、社、會、の、暗、黒、なる、部分、に、向、て、宗、教、的、感、化、を、及、ぼ、す、もの、にして、佛、教、の、消、滅、の、事、業、と、謂、つ、べ、き、然、れ、ども、現、時、宗、教、的、感、化、の、及、ぼ、さ、る、は、獨、り、此、等、の、範圍、に、止、り、す、亦、社、會、一般、の、通、思、と、謂、つ、べ、き、者、に、候、而、して、現、今、社、會、の、勢力、は、實、業、界、に、集、注、し、殖、産、興、業、日、々、旺盛、に、赴、き、到、る、處、會、社、を、組織、し、工場、を、設置、し、幾、多、の、勞、働、者、は、其、下、に、繁、り、幾、多、の、資、本、者、は、其、上、に、立、ち、上、る、實、業、階、級、の、間、に、甚、し、く、社、會、を、兩、斷、して、互、に、凌、視、を、事、と、す、る、現、況、に、御、座、候、陳、者、は、今、後、社、會、問、題、の、焦點、に、して、夙、に、識、者、の、憂、と、す、る、所、而、して、此、上、下、間、の、調、和、を、保、つ、もの、宗、教、の、力、に、依、ら、ず、ん、ば、他、に、道、なき、こと、明、了、に、有、之、候、是、れ、固、く、吾、人、の、信、ず、る、所、に、於、て、斷、々、と、して、此、に、明、言、す、る、所以、に、候、此、に、於、て、や、今、後、佛、教、者、たる、者、從、來、の、消、極、的、方針、を、一、轉、し、て、

積極的方針を採り、資本家に向て宗教心を喚起し、下労働者に向て宗教的感化を與へ、上下の調和を圖らざるべからず、吾人が目下の急務として工場布教の必要を呼號する所以にして、從來佛教者の輕視する所、特に賢明なる諸師が率先して策勵せられんことを希望する所に、御座候、

前記は社會問題の點より宗教者の任務を叙述致候、而して國家問題の點より我佛教の責任を盡すべきは、實に軍隊布教に御座候、抑、宗教は安心立命を與へ、道徳的感化を普及するは、其本領なること勿論なれ、其宗教として一組織を有し、人世に存在する以上は、其國家に適合する條制を有せざるべからず、是れ實に政教問題の存在する所に、御座候、而して軍人は國家擁護の干城たる者、其精神を練磨し、安心立命の域に達せしめんと欲せば、實に我國家固有の事、謂ふべき佛教を以て信仰を定むべきこと、多言を要せずして明なること、存、候、從、來、軍、隊、布、教、は、既、に、若、手、せ、る、こと、監、獄、教、導、事、業、に、讓、ら、ず、然、れ、ども、其、團、體、も、亦、彼、より、下、る、こと、なき、殊、に、軍、人、は、遠、く、上、流、社、會、に、涉、り、社、會、健全、の、分子、の、集、合、せ、る、もの、其、布、教、者、の、如、き、人、才、選、擇、の、點、に、於、て、三、つ、の、意、を、致、さ、る、べ、から、ず、此、亦、大、海、流、を、な、り、且、今、後、の、養成、を、希望、す、る、次第、に、候、

右の趣旨に基き、上陳諸般の教導及布教師を養成せんが爲め、適當なる學校を建設せられんことを切望し、其要領を左に叙述可仕候、

一、人、才、の、選、擇、

此養成場を以て眞價あらしむる否とせば、其選拔する人、才、の、如何、に、關、由、り、故、化的、責任、の、無、無、を、設、けて、廣、く、人、才、を、集、め、一、定、の時、日、を、期、して、其、選、否、を、試、み、尤、感、的、的、責任、の、多、少、を、以、て、再、度、の、選、擇、を、爲、し、其、選、者、を、選、ん、で、之、を、養成、す、る、こと、を、要、す、其、人、數、の、多、少、の、如、き、は、問、ふ、所、に、あ、ら、ず、

一、待、遇、

前記の選擇により採用せる者は、必や披瀝の士にして、且つ終生名利を抛ち、感化事業に一身を捧げたるものなれば、學校は之が待遇を厚くすべし、而して今後政府を以て是等教師及布教師に對して、宗教家に接するの禮遇をなさしむべし、

一、指導、者、

宗教的感化の厚き高徳に托して、生徒の信念を熾ならしめ、徳行を以て師表となし、指導者の任に當らしむること、

一、學、科、

入學者は尤も普通教育を受けたる者ならざるべからず、而して入學の上、教ふる所、は、各、事、業、に、於、て、必、須、なる、特別、の、學、科、を、修、め、し、め、る、に、關、する、事、門、の、學、者、を、聘、し、て、教、授、を、托、す、る、こと、而、して、其、修、業、期、は、四、年、より、下、る、べ、から、ず、

一、東、京、に、之、を、設置、

現今右の諸事業に關する適當なる學科を教授し得べき教員を聘すること、は、東京に非ずんば、能はざる也、且今後社會問題に着手する者は、第一若し手を下すべし、中央官庁に在り、故に、此、任、に、當、ら、ん、と、す、る、者、は、此、地、に、在、り、て、大、勢、に、着、眼、する、を、要、す、

一、組織、

右の組織に實に佛敎をして社會の活ある部分に向て其感化を及ぼさしめ、教域を開拓するものなれば、各本山布教の一半を割きて之に充つるも、決して多せず、而して吾人は各宗派を以て之を協立せられんことを切望す、至に堪へず、若し現今の事情を許さずんば、之を理想として各宗各目に着手すること、は、本、會、が、抱、抱、す、る、意、見、の、大、要、に、御、座、候、陳、者、は、先、記、諸、師、時、勢、の、趣、向、に、鑒、り、社、會、の、現、狀、を、察、し、大、法、の、ため、國家、の、ため、に、御、座、候、陳、者、は、先、記、諸、師、時、勢、の、趣、向、に、鑒、り、社、會、に、爲、す、幸、に、明治、十、一、年、十、二、月、

大日本佛教青年會

信 象

感謝的觀念

水月 哲英

吾人の心に耻かしき汚點あることは自ら反省すれば知るを得べし其汚點あることを知るが故に之を隠蔽せんとす若し汚點なかりせば隠蔽するの必要はない佛敎にて心的作用を論ずるに心王心所と分つ心王とは思慮し分別する作用に於て主となる心を云ふ心所とは其伴隨となりて作用する心に名く譬へば眼識が外物に對する時は赤色なり青色なりと了別するは心王の作用なり然るに猶ほ精密に認めて或は愛すべしと爲し或は惡むべしと爲すが如きは心所の作用であるが畫師が初めに概形を取り後に繪具を施すが如し概形を劃するは心王にして彩色を施すは心所である其心所五十一ある中に腹の心所あり是が自己の造れる罪惡を隠蔽する心にして貪慾癡を體とするものである愚癡に依るを以て己が罪惡を隠くし貪慾に依るを以て名譽利益を失はんことを恐れず抑する耻つかしき汚點あるに反して公明正大純粹潔白なる心的作用は感謝的觀念であり得す

感謝的觀念は隠蔽するの必要は否之を隠蔽せんとするも隠し得ざる者である試に見よ一時の饑饉を救はれたるにても之に感謝するに非ずや况んや大恩をや感謝的觀念は貴賤上下を問はず智慧賢不肖を擇はず均しく是認する所である公明正大である受けたる恩を報ずるに己の利得を顧みる者に非ず眞に吾を忘れて感謝の意を表する者である利己的汚點を有して報ずるものならんは眞正の感謝ではない故に感謝的觀念は

今 昔

北陸の大慈善家小野太三郎氏(承前)

柳丘學人

ぬば玉の闇夜の梅も、色こそ見ぬね、なごかその香のかくるべき、小野氏を見もし、または聞きもしたらんほどのものは。みな氏の幼き折の事を知らなく思ひ、中には氏の慈善の經

歴をものして、世の鏡にもとて、氏を尋ね、きいたすもの數々なれども、氏はいつも語をよそごとのみむけて、遂に答へし事なしとかや。されば氏は長年月の行は其一端を記すだにも一冊の文となりぬべきほどに、その里人の耳の底心の奥に残れるを、これに開夜の梅にも譽へつべき。

世は因果の車なり、前世の果報つたなくば、現在にはあはれなる狀に沈みなん、今世の因果おろそかならば、未來はなごかうつくしき果をたのしむべき三佛の三光りの照らしにや、氏は乳臭の兒童にして能くこの理を知り心を慈善に決つ、一意専心先づ業を勵みつるに、ゆくりなく眼病をやみ、悶へ苦しみ身の不幸をかちつ、世に望をたちて、あらぬ心さへ起すに至りしも、神佛の冥護ありけむ、一朝にして瘡りければ、氏は深くも神佛の加護を感じ、只管慈悲の心をはげませり。うの折座頭座として三百人あまりの旨あり、氏つくづく身にしみてうの不幸をあはれみ、思ふやう、世にはくちなしあり、をしあり、ちんばあり、とりどりといづれかあはれならざる、されど日の光にもあはれず、ぬば玉の常闇にさまよふものぞこよなきあはれなる。これより年々座頭の爲に悪む事頗る多かりけり。これ氏か慈善に身を入れたるはじめにして年は唯十六の折なりしとぞ

維新の折座頭座は癡せられ、盲目の四方に流離するもの多かりしかば。明治六年氏一家を購ひ、二十餘人をこれに引き取り、朝赤く仕送り、夕なぐになぐさめけり。これ氏が窮民をおのが家に養へる初めなりと。又舊藩の頃の御小屋なるものもこの頃に至りて廢せられ、數百の窮民は糊口の道

なく、氏の門に至りて哀をこふもの數をしらざりしは、西より來るものも、東より至るものも、前も後も、氏は一人も謝絶らず、家を買ひつゝ養へるもの百余人ありしといふ、まるべもなきさの捨小舟は若氏の家、こよなき港を得て、こゝに慈愛の風にはぐもされぬる、うの喜びはいかなりけんかし。世が世ならましかば兩刀を腰にし、肥馬に跨り、美酒にあき、癖肴も心のまゝなりし士族も、時の變遷にあいて、親は子とわかぬ別れをなげき、妻は夫と契りの淺さを悲しみ。何處の親にやあらん、薦につゝまれて霜の朝にこゝえ、いづこの奥方にやあらん、身に襦袢をまどひて、雪の夜半に饑の。慈愛にみてる氏はいかでかよそにこれを見てあるべき。眼にふるもの、耳にどまりしもの、鼻引きどりて、病めるものは看護し、幼きものはいたはり、老いたるものはたすけ、壯なるものは業をさづけたる事指を折るに違わらずとぞ。くだくしければ今は省さつ。

悪事は忽ちにして千里の外に走るも、善事は門を出でずこかや。氏が富裕の財産を蕩盡して二十餘年來盡し來れる仁慈の行も同調の人に於て知れるもの極めて稀なりけり。されどかくもさはに實を結べる木のいかでか長く埋れはつべき。二十餘年來の埋木も明治十八年のさざらぎの春に至り、世にもかくはしき藍綬章の花を開きつるは、恩澤廣大の天のめぐみにもよるべきも、ひとつは氏が年來養ひ培へる爲めにるべし。これよりさき明治十一年の東北御巡幸の折、あゝ、氏の殊功をさこえたてまつらんとして氏の家に至りて具さにその狀を問へるとありき氏はうの名の傳はれるは誤聞

なりとて、遂に通れて家に歸らざるもの數日、事遂に成らずして已みにさといふ。名聞を好まず、利養を願はざる氏か如き亦世に絶えてきく所なしといふべし。是皆佛教の教なる無我の理に達せるの致す所にして、氏は唯これ己を忘れ身を忘れて、人の危に趣き、人の危に走るのみ。名の聞を、利を得んどの心などは、氏にとりては豫想以外の事にて氏は盡る更の訪問にあひて喫驚せるなるべし。氏或時火葬場を設けんとせる人を扶けて、大に奔走せしかば、その人厚く氏に禮せんとせしに、氏之を取らずして、いふやふ、唯窮困者の屍を火くを得ば足れりと。殊に明治二十年の神無月の頃なりき。これより年を歴ると僅かに三たびにして、氏の紹介にて茶毘するを得たるもの千名ほどなりと。この鴻大の恩惠は世のおほかたの義捐慈善と全くその性を異にし、人目にふれざる所なれども無縁の大慈悲は、色をも香をも知る人ぞ知るなり。

衣食足りて禮節を知る、口腹満たして不良の徒ならざるものは稀なり。氏の收養によりて正業に就けるもの今枚擧すべからずとぞ。さてまた「うちの子」の死ぬるものあれば、氏自ら之を昇ぎて埋葬するもの幾百名なるやを知らず。某年元旦の雪深く風強き臥龍山の夜半に葬れる時、某年嚴冬雪の爲臥龍に上るを得ず、遠く野田山に埋めける折、氏の行を聞き、氏の跡を見るもの、稱ふる語を知らず、褒むる言も出でずとぞ。氏が身はげに、なべての人の心にては量る事も出来がたき涙々含み、慈愛を包むなり。氏が埋葬せるはただ「うちの子」のみにはあらず。某處に負にして葬る能は

どともに、人またこれらの澤をうくる事もさばに多かり。まして同じく人と生れたるもの、誰かは人のめがみなくてはなら得べき。彼は我が爲に恩人なり、我また彼の保護者たらざるべからず。ましてや佛教の説くところ、この世の教のみにあらずや。ほろくど鳴く山鳥の聲さけば、父かどぞおもふ、母かどぞおもふ。無心の鳥にむかひても此情ありてこそ、人といふべけれ。佛を知り、法をさくもの、同胞にむかひては、なごか鬼の心を起すべき。彼の身を以て、我が身となし、我が情を以て彼の情となす事、念佛行者の信後相續の行どころいふべけれ。小野氏夫婦の行跡を、誠に念佛行者のこよき鑑なる。

廣告

佛敎國民同盟會編纂 耶蘇教非公認論

郵稅價金二十錢 十部以上一割引

本書は耶蘇教の公法上吾國に於て認可すべからざる所以を痛論したるものにして、其實例として、耶蘇教が西歐各國に於て常に政治上に混入し來りて大に國家の發達に障害を與へたる事蹟を示し、上、羅馬帝國と耶蘇教との關係より、下、近世ビスマルク公政策と耶蘇教會との衝突に至るまで、古今滔々千數百年間に於ける政敎の沿革、歴々として掌をみるが如く、毫も餘蘊なし、是實に某專門家の手に成るもの歴史學的術的著述として大に價値あるものなり、其斷案に至りては他の漫然として感情的論議をなすものと異り、一に公法上の根據による、若し一たひ之を繕かは、耶蘇教會の專横、疎然として我國民亦未雨に綢繆せむは他日臍を臨むの悔あらむ、乃ち本書を出版し、江湖同愛諸士の一讀を請ふ所以なり

申込所

佛敎徒國民同盟會出版部

東京市本郷森川町橋通三百一十一號

ざるものあり、氏自ら棺を製してその家に至りしに、死者吐血、彫しく、其妻すら猶近かざりしかば、氏首をたれ按ずること暫にして涙の下る事三行、手ら屍を抱きて之を殮め、人の心のはかなきをなげき、涙ながらに之を葬れりとぞ。氏が身は一言にて之を云へば慈愛の凝固せるものなり。氏の内君も亦仁慈の女性にして、能く氏を扶けて夙に稱名の聲と共に起してははたらき、夜は念佛の聲と共にふくるまでつとめ勉世の常に超えたりと雖、慈愛の爲に現今は家産全く盡き菓子飴類を擔ふて、中村落をうりありき、風の日雨の折、暑さにも寒さにも十餘年の間一日も怠る事なく、暇あれば「うちの子」の衣を洗い、疾を看、炊き、養るなど暫時も徒には過ぎず、郷里の人皆之を激賞めて婦女の鑑とすとかや。この仁惠博愛の義夫貞婦今はその財産もつきはたれど「うちの子」ともに毎日濃粥をすゝり「うちの子」と共に破れたる衣を着、「うちの子」ともに、あばら家に起臥してその慈愛の心、三十餘年來一日も弛みし事なしとぞ。

氏の善行は縣廳の賞狀、藍綬章、長谷川師の慈善追吊會、普蓋師の贈り物、大谷光勝師よりの下附物、共潤會の贊助、船越知事の訪問、共立慈善會の補助、醫師數多の無代治療、無代火葬、等其他指を屈する能はざるまで、訪問、贊助、等によりて頗る光を放ち、また岩村知事及び大谷光勝師の内君よりの賞與ありとぞ。

世にありとあらゆるもの、いづれか他によらずしてながらへ得べき。故に佛敎には衆生恩を説く。草も木も鳥や、獸や、人に食はるゝ爲にのみ世にあるものならず。是等人に恩ある

日本法律學校講師 藤堂融君新著

大審院檢事 藤堂融君新著

各國宗教法論

立憲政教要論

右二書は本校講師大審院檢事藤堂融君の著として君が並に歐洲に留學せらるゝるや心を斯學に寄せ研究得る所からざりしは夙に法曹界の許す所、今や改正條約實施の期に迫り宗教制度創立の議あり加ふるに幾多の政敎問題將に大に來らん此時に際して之に處するの準備なくんば發噴の恨なしとせんや君深く之を慨し普く歐米諸國の宗教法を纂述し命じて宗教法論と云ふ材料豊富理義明晰如何に文明各國が宗教法を待過するやを詳悉せん同時に政教要論を譯出せらる。爾後伯林大學教授「レンジュ」氏の原著に係り立憲國に於ける政敎の關係を論斷する公正明確其右に出づるものなし實に政界の雙璧とす仍て君に乞ひ之を上梓す我邦政治宗敎を愛するもの志士奮て購讀の榮を賜へ

東京日本法律學校出版

東京市神田區神保町七番地

申込所

明法堂

政敎時報第壹號目錄

●社説 佛敎徒國民同盟會の地位 ●公論 佛敎徒の弱點 ●立論 佛敎徒の確立 ●事件 佛敎徒の運動 ●社會 佛敎徒の社會 ●附錄 佛敎徒の社會 ●今昔 佛敎徒の社會 ●附錄 佛敎徒の社會 ●同朋 佛敎徒の社會 ●附錄 佛敎徒の社會 ●實諸師の祝辭

佛敎徒國民同盟會入會手續

四方同感の諸彦は左の書式に従ひ個人若くは連名を以て至急御申込被成下度候(用紙美濃野十二行、地方部設立の分は地方部へ一通を止め、本部へ一通御送致被下度候)

佛敎徒國民同盟會の趣旨に賛同し加盟仕候也

年月日 佛敎徒國民同盟會御中 原籍族籍姓名印

大日本佛教青年會廣告

本會は、佛教を信奉する青年の團體にして、自家の安心立脚の地を定め、一致團結、進んで斯教の闡揚を圖るを以て第一義とす。回顧せば本會の淵源頗る遠し、明治二十五年一月、帝國大學、第一高等學校、東京專門學校、慶應義塾、哲學館、法學院に於ける有志者、傲を傳へて會盟し、肇めて佛教青年聯合會を組織せり、席上議決するもの二件、釋尊降誕會及夏期講習會是なり、爾來若々之を實行し、遂に年々の事例と爲り、今や大方の贊襄により益其規模を擴張するの至運に際れり。明治二十七年四月に至り、聯合會の組織或は江湖同感の士を洩さむことを恐れ、合して一團と爲し、大日本佛教青年會を創立し、各地に支部を設け、諸方の團體と連絡し、若々種々の事業を擧げ、遂に今日の隆盛を致せり、然れども從來の事、本會初志の萬一に酬ゆるにたも足らず、將來一段歩武を進め、教育事業、慈善事業、社會事業、傳道事業の如き、都て純潔なる佛教主義を以て施設經營し、聊か邦家に報効し、社會に貢獻する所あらむとす。今や時機切迫正さに宗教信者たるもの猛烈として起つべきの運に際す、而して本會員亦恰も凡百の社會に彌り、大に力を致すべき基礎既に成る幸に佛光照耀のあり、鞠躬盡瘁斯教の爲めに猛進せば、庶くは若くは個人として入會を通告せらるるもの續々臻る、乃ち本會の趣旨を略叙し、且つ規程の梗概を掲ぐる所以なり、終りに臨み一言す、本會は徹頭徹尾通佛教の主義を執るものなり、吾人嘗て世上に告白して曰、金杖一たひ折れて數段に分ると雖、段々皆金片たるを失はず、分け登る麓の道多しと雖、何れも高嶺の月を望む、佛教固より無我を以て宗とす、豈宗派の異同を問はんやと、是本會の固く執て動かす、由て以て終始せんと欲するものなり、今や正に天合同の時機に屬す、冀くは同感の青年諸士來り會せよ。

入會
一、東京在留の人はして入會申込する、時は本部に至るが會員名簿に自筆署名せらるべし
二、地方より入會申込する、人は自筆署名捺印の上郵書を以て送致せらるべし
手續
一、右何れも規則第八條により會員二名の紹介を要す、若し會員中に知己なきときは自己の經歷を具して本部に申込する、ときは特に便宜を與ふべし

明治三十三年一月十三日印刷
明治三十三年一月十五日發行
發行所 東京市本郷區森川町一番地 佛教徒國民同盟會出版部
發行所 東京市本郷區森川町一番地 佛教徒國民同盟會出版部

大日本佛教青年會

(本部兼接) 帝國大學、第一高等學校、東京專門學校、慶應義塾、哲學館、千葉第一高等學校醫學部、曹洞宗大學林、理士宗高等專門學院、音羽大學林等
(支部及連署) 關西佛教青年會、第二高等學校連署會、第四高等學校內支部、第五高等學校內支部、愛知醫學學校內支部、北陸佛教青年會、大聖寺感德青年會、大阪佛教青年會等

大日本佛教青年會規則

- 第一條 本會ハ大日本佛教青年會ト稱シ本部ヲ東京ニ定メ支部ヲ便宜ノ地ニ置ク
- 第二條 本會ハ青年者ニシテ佛教ヲ信奉シ且ツ其弘通ヲ謀ルヲ以テ目的トス
- 第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ行フ
 - 一、毎年釋尊降誕會ヲ執行スルコト
 - 二、毎年便宜ノ地ニ於テ夏期講習會ヲ開クコト
 - 三、定期若クハ臨時就教講義及ヒ演說會ヲ開クコト
 - 四、定期或ハ臨時有益ナル出版物ヲ發行スルコト
 - 五、前列ノ外總會若クハ評議員會ニテ必要ト認メタル事項
- 第四條 本會ヲ員ハ發助員及ヒ正會員ノ二種ヨリ成ル
 - 一、發助員トハ高僧名士及ヒ篤信者ニシテ本會ヨリ特ニ入會ヲ依頼シタルモノヲ云フ
 - 二、正會員トハ成親ノ手續ヲ經テ入會シタルモノヲ云フ
- 第五條 本會ハ各員中ヨリ評議員六名ヲ撰出シ評議員中ヨリ互撰シ以テ幹事一名ヲ置キ各任期チ一ケ年トシ再撰スルコトヲ得
- 第六條 幹事ハ會務ヲ整理シ評議員ハ之レヲ評決ス
- 第七條 本會ハ春秋二期ニ總會ヲ開キ必要ニ照シテ臨時總會若クハ評議員會ヲ開ク
- 第八條 本會ニ入會セシムルニ欲スルモノハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ幹事ニ申込ムヘシ、退會セント欲スルモノハ其旨幹事ニ申出ツヘシ
- 第九條 本會ノ經費ハ總會費、喜捨金、得盆金及雜收入ヲ以テ之ヲ充テシ、但シ正會員ハ會費トシテ毎月金五錢宛テ差出スヘシ(會計規則ハ別ニ之ヲ定ム)
- 第十條 本會ノ目的ヲ害シ及ヒ其面目ヲ汚ス所爲アルモノハ評議員會ノ決議ヲ以テ除名ス
- 第十一條 本會ノ規則ヲ改正セントスルトキハ會員五名以上ノ建議ニ依リ總會若クハ臨時總會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

本誌廣告

一部	一ヶ月	六ヶ月	一年	全
金貳錢五厘	金五錢	金參拾錢	金六拾錢	無幾送料

●廣告料五號活字一行(二十七字詰)一回金拾錢
●爲替換込局は本報森川町臨時金替換取所宛の事
●爲替受取人名宛は東京本郷區森川町一番地佛教徒國民同盟會出版部とせらるべし

發行所 東京市本郷區森川町一番地 佛教徒國民同盟會出版部